

リーダーの撤退

エネサーブは基幹事業である自家発電販売事業からの撤退を発表した。エネサーブは価格競争力の高い定型の発電機を用いて安価な電力を供給することで急成長した会社だ。量産効果が利き、性能的にも安定した中型の発電機を用い、燃料には安価な重油を用いた同社のビジネスモデルは高い競争力を持ち、8千台近い発電機を納入するまでに成長した。その総発電容量は実に150万キロワットにも達する。

2000年にはナスダック・ジャパンへの上場、2001年には東証一部への上場を果たし、まさに、電力自由化時代のエネルギービジネスの雄と言うに相応しい存在であった。そのエネサーブが基幹事業からの撤退を発表した。これは単に分散型電源の

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

分散型エネルギー再生へ

エネルギー政策を問う ①

井熊 均 日本総合研究所 戦略センター 日創発



うものと言える。

そして、長年手塩に育て上げた基幹事業から撤退せざるを得なくなつたもう一つの理由は、余儀なくされている。採

（いぐま・ひとし）1958年生まれ。81年早稲田大学理工学部卒業、83年早稲田大学大学院理工学研究科修了。同年三菱重工業入社、89年同社退社。90年日本総合研究所入社。現在、同社執行役員、創発戦略センター所長。95年アイエスアイ・ジャパン設立と同時に同社取締役に就任（兼務）、03年イーキュービックス設立と同時に同社取締役に就任（兼務）。早稲田大学大学院非常勤講師も務める。

いま問われる産業政策と支援策

けられない中で、オンサイト発電というビジネスモデルは過去のものになるうとしていのである。この点に関する明確な示唆が得られないのならば、エネサーブの撤退はオンサイト発電マーケットの劇的縮小の始まりに過ぎない。エネルギー産業の時間は巻き戻され、1995年以降、可能性がある、というところだ。にもかかわらず、予想を超えた石油価格の高騰で分散電源ビジネスが危機に直面しているのは理由がある。

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

今、はつきりさせておかななくてはならないのは、需要家の側に電源を置き、エネルギー効率を80%にも高め得る分散電源には、エネルギー問題を解決するための大きな

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

今、はつきりさせておかななくてはならないのは、需要家の側に電源を置き、エネルギー効率を80%にも高め得る分散電源には、エネルギー問題を解決するための大きな

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

今、はつきりさせておかななくてはならないのは、需要家の側に電源を置き、エネルギー効率を80%にも高め得る分散電源には、エネルギー問題を解決するための大きな

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

今、はつきりさせておかななくてはならないのは、需要家の側に電源を置き、エネルギー効率を80%にも高め得る分散電源には、エネルギー問題を解決するための大きな

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

今、はつきりさせておかななくてはならないのは、需要家の側に電源を置き、エネルギー効率を80%にも高め得る分散電源には、エネルギー問題を解決するための大きな

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

今、はつきりさせておかななくてはならないのは、需要家の側に電源を置き、エネルギー効率を80%にも高め得る分散電源には、エネルギー問題を解決するための大きな

エネサーブが主幹事業から撤退した理由は、言うまでもなく原油高である。電力自由化により自家発電代行事業が解禁された当時、20〜30ギガでしかなかった原油の値段が今では70ギガを超すようになっている。電気だけを供給するモノジェネレーションをベースに価格で勝負してきた同社にとって、予想を超えた原油高の影響は耐え難いほど大きかったのだらう。

今、はつきりさせておかななくてはならないのは、需要家の側に電源を置き、エネルギー効率を80%にも高め得る分散電源には、エネルギー問題を解決するための大きな